

浦添市市制施行50周年記念展・令和2年度第2期常設展

琉球漆芸の今 受け継がれる技



<黒漆葡萄堆錦重箱>
古波鮫唯一 作 1981年 当館蔵



<朱漆蝶菊唐草沈金文庫>
金城唯喜 作 1991年頃 当館蔵



<乾漆塗立白漆盛器「クハ扇」>
諸見由則 作 2019年 個人蔵

2020年 2021年
9.23(水) — 1.17(日)
浦添市美術館 常設展示室

開館時間 9:30~17:00 ※毎週金曜日は19時まで(入館は各30分前まで)

休館日 毎週月曜日 (11/23、1/11は開館)

観覧料 一般200(160)円 / 大学生130(100)円 / 65歳以上160円 / 高校生以下無料
※()内は20名以上の団体料金

主催・お問い合わせ

住所 〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1-9-2

電話 098・879・3219

FAX 098・878・1221

出品協力
沖縄県立博物館・美術館、沖縄県立芸術大学
附属図書・芸術資料館、那覇市伝統工芸館、
角萬漆器、株式会社琉球銀行



浦添市美術館
URASOE ART MUSEUM

浦添市美術館 検索
museum.city.urasoe.lg.jp



HP

浦添市市制施行50周年及び令和2年度第2期常設展として、沖縄で活躍する現代の漆芸作家に焦点を当てた展覧会「琉球漆芸の今－受け継がれる技－」を開催いたします。

琉球王国時代、王府の管理の下に製作された琉球漆器ですが、沖縄県に変わり漆器製作の担い手は民間工房へと変化しました。そして、現代では、漆器店以外にも個人で作家活動をする方々が多く見られ、沖縄で活躍する漆芸作家の存在が脚光を浴びています。

今回の展示では、まず王国時代の漆器と近代沖縄の漆器を紹介し、沖縄県指定無形文化財「琉球漆器」保持者をはじめとする現代沖縄の漆芸作家の作品を紹介いたします。

約90件の展示作品から、琉球漆芸の伝統を受け継ぎつつ新たな展開を見せる沖縄の漆の世界をじっくりとご堪能ください。



<白檀塗楼閣山水箔絵湯庫(市指定)>
琉球 18~19世紀 当館蔵



<朱漆螺鈿飾箱>
前田孝允 作 1974年 当館蔵



<夜風 盛器>
松田勲 作 1993年 個人蔵



<オブジェ 海神祭>
前田國男 作 2008年頃 当館蔵



<黒漆雲龍螺鈿盆>
宮城清 作 2011年 個人蔵

交通情報・地図

バスご利用の場合 ※いずれのバス停からも徒歩5分

那覇市外線バスターミナルより
②① ⑨⑧ ⑨⑧ 大平バス停下車
⑤⑤ ⑤⑥ 美術館前バス停下車

首里鳥掘方面より
⑨① ⑨① 美術館前バス停下車

自動車ご利用の場合

那覇空港から国道330号
または国道58号線
北(宜野湾方面)へ約12km

ゆいレールご利用の場合

ゆいレール【浦添前田駅】下車

バスに乗り換え
⑤⑥
(浦添線)【美術館前バス停】下車

タクシーに乗り換え
美術館まで
1.6km(約5分)

ゆいレール【古島駅】下車

バスに乗り換え
②① ⑨⑧ ⑨⑧
大平バス停下車、徒歩5分

タクシーに乗り換え
国道330号を
北へ約3Km

